

モニタリング結果報告書

施設 相模湖交流センター

指定管理者 アクティオ株式会社

施設所管課 土地水資源対策課

(平成 23 年度 下半期)

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえ、判定してください）

B

<判定理由>

指定管理者による来館者数の増加に向けた積極的な自主事業の展開などは、大いに評価できる。しかし利用料金の後納（1件）については、利用者に第一の責任があり、やむを得ないと認められる事情もあるものの、施設所管に報告が遅れるなど、極めて良好な管理運営状況とは言い切れないため。

- A：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
- B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
- C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
- D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考（指導事項等）
			月報確認	現場確認	電話確認		
10月	11月18日	11月28日	○			なし	
11月	12月15日	2月16日	○		○	あり	利用日の約7週間後の報告となったため、前納の徹底とともに、速やかな報告に留意するよう指導した。
12月	1月19日	2月16日	○			なし	
1月	2月15日	2月22日	○			なし	
2月	3月16日	3月27日	○			なし	
3月	4月10日	4月27日	○			なし	

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績又は今後の見込みを記載してください。

<提案内容の概要>

「アクアロジカル・コミュニケーションセンター」（循環する水・人と人の様々な交流の場）として、次の（１）～（５）の視点で多様な自主事業の開催により利用者の拡大を図る。

- (1) 平和・友好・共生のシンボルとして
- (2) 水源地域の自然の保全をPRする場として
- (3) 活性化のためのハブ機能として
- (4) 豊かな自然、美しい水と触れ合う場所として
- (5) 様々な交流の場を提供する「コミュニケーションセンター」として

<実施状況>

自主事業

地元住民の意見などを踏まえ、当初提案を上回る事業を開催した（主なものは次のとおり）。

(ホール関係)

事業名	交流の種類	実施日	参加者数
木之下真市 津軽三味線コンサート	自然を通じた文化とのふれあい(自然の音に近い三味線を通して日本文化に触れる)	平成 23 年 10 月 8 日	1 1 8 人
We 3 ジャズコンサート	地域活性化(著名なジャズマン出演による賑わい)	10 月 23 日	1 1 2 人
瑞宝太鼓 和太鼓コンサート	多様な交流(相模湖の権現太鼓とのコラボ)	10 月 29 日	1 4 0 人
後藤正孝 ピアノコンサート	上流域と下流域の交流(地元住民と旧相模原市域在住のピアニストとの交流)	11 月 26 日	8 0 人
秦万里子 音楽パフォーマンス	多様な交流(子どもから年配者まで世代間交流)	12 月 10 日	6 8 人
山形ゆう子の会	地域活性化(周辺住民の合唱参加による賑わい)	12 月 17 日 3 月 2 日	(計) 1 3 4 人
猪俣猛&ザ・サード ジャズコンサート	地域活性化(著名バンド出演による賑わい)	12 月 23 日	2 5 8 人
イリーナ・メジュエワの ピアノコンサート	自然を通じた文化とのふれあい(水にちなんだ曲の演奏で特色)	平成 24 年 1 月 5 日	1 4 0 人
桂歌丸 落語(相模湖寄席)	自然を通じた文化とのふれあい(相模湖のおいしい空気の中で話芸文化を味わう)	2 月 9 日	4 0 4 人
東京フィルハーモニー 弦楽コンサート	多様な交流(都心のファンに相模湖をアピール、東フィルと地元住民との交流)	2 月 26 日	9 3 人
佐藤彦大ワンコイン ピアノコンサート	地域活性化(低料金の若手音楽家の演奏による賑わい)	3 月 10 日	1 0 0 人
猪俣猛&ザ・フォース ジャズコンサート	地域活性化(超有名バンドによる賑わい)	3 月 17 日	8 0 人

(ギャラリー関係)

事業名	交流の種類	実施日	参加者数
ダムマニア展	自然を通じた文化とのふれあい（ダムマニアの活動紹介により、ダムの美しさをアピール）	11月19日～25日	822人
クリスマスワークショップ（リースづくり）	自然を通じた文化とのふれあい（相模湖の流木などの素材でリースを作り、自然を大切にすることを培う）	12月1日～8日	215人
やまなみ文化祭	多様な交流（相模原市在住の美大生による絵画展開催、世代間、都市・水源地間の交流）	平成24年 3月21日～29日	188人

4 収支状況（単位：千円）注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しません。

	収入額				支出額	収支差額
	収入合計	指定管理料	利用料金	その他収入		
年間予算額						
今期 (前期)	87,195 (102,956)	80,470 (88,230)	6,200 (-)	525 (14,726)	87,195 (102,956)	0 (0)
下半期 予算額	43,640	40,240	3,100	300	43,640	0
10月	7,229	6,705	505	19	6,551	678
11月	7,079	6,705	358	16	5,282	1,797
12月	7,187	6,705	476	6	6,062	1,125
1月	7,237	6,705	517	15	4,969	2,268
2月	7,057	6,705	333	19	6,629	428
3月	7,381	6,715	656	10	8,038	△657
今年度 半期計	43,170	40,240	2,845	85	37,531	5,639
前年度 同期計	44,075	43,959	-	116	64,521	△20,446

- 1 指定管理者の収入を記載してください（県の収入である「使用料」は含みません。）。
- 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載してください。

収支状況に関する意見等

- ① 年間予算額における収支差額が0でない場合は、その理由を記載してください。
- ② 今年度半期計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し詳細に記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載してください。また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載してください。
- ③ 今年度半期計における収入額又は支出額が前年度対比 30%以上プラス又はマイナスとなっている場合は、理由を分析し、詳細に記載してください。

<意見等>

- ①該当なし
- ②該当なし
- ③該当なし

<参考>

本施設について県が支出した（する）修繕費等

100 万円以上の修繕費等については、県が支出することと基本協定で定めている。施設の状況をより的確に把握するため、県が支出した修繕費等についても参考に記載している。

- 県が支出した施設の修繕費等の金額及び工事内容を記載してください。
- 「金額」欄は、半期ごとの総額を記載し、「工事箇所・内容」欄には、主な工事とその金額をカッコ書きで記載してください。
- 修繕等の一覧がある場合は、参考にご提供くださるようお願いいたします。

	金額	工事箇所・内容
上半期	0 円	
下半期	7,745,115 円	冷温水発生機部品交換整備工事 (4,954,215 円) 2 階外壁タイル部分改修工事 (1,491,000 円) 空調機整備工事 (1,299,900 円)
総額	7,745,115 円	

(今期に行った資本的な収入及び支出等の状況)

該当なし

	内容	金額(千円)
収入の状況		
支出の状況		
積立等の状況		(期首)
		(期末)

収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載してください。

支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載してください。

積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載してください。

5 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
10月	3,721人	3,748人	△0.7%
11月	7,195人	5,730人	25.6%
12月	3,865人	2,972人	30.0%
1月	2,536人	2,855人	△11.2%
2月	3,521人	2,833人	24.3%
3月	4,543人	2,790人	62.8%

	目標利用者数	利用者数	前年同月利用者数	目標対比増減率	前年対比増減率
今年度上半期計	※ 人	22,927人	28,667人	%	△20.0%
今年度下半期計	人	25,381人	20,928人	%	21.3%

※ ホール及びギャラリーの利用率

目標値 ホール 80% ギャラリー 65%

年間実績 ホール 82.8% (231/279) ギャラリー 47.9% (148/309)

利用状況に関する意見等

- ① 今年度上(下)半期計の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由及び対応策を分析し記載してください（特に、理由の記載にあたっては、各月の状況を分析し、わかりやすく具体的に記載してください）。
- ② 目標利用者数を下回った場合は、その理由を記載してください。
なお、目標利用者数を定めていない場合は、未記入もやむを得ませんが、次回以降は記入してください。

<意見等>

今年度下半期計は昨年度比 21.3%の増である。11月は自主事業ダムマニア展の開催で昨年度比 25.6%増、12月もコンサート3回とギャラリーのワークショップ開催で同 30%増、2月も落語が完売になるなど評判を呼び同 24.3%増、3月もコンサート3回及び絵画展の開催で同 62.8%増（昨年同時期が震災直後のため）の結果、昨年度比 21.3%増になった。

6 苦情・要望等の状況

受付件数（うち施設所管課受付分）該当なし

	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
下半期報告						
合計	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなど、特に注意すべき場合に記載してください。

分野	概要	対応状況
施設・設備	・ピアノ、ベーゼンドルファーについて調律会社より、ピアノ各部の疲労、消耗が進んでいるとして抜本的オーバーホールの必要性を要望されている。	現在の使用には支障がないとのことで、次年度以降に検討を依頼したい。
職員対応	・	
事業内容	・	
その他	・	

8 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載してください。

なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、行政改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出してください。

発生日	事故の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)
10月 20日	条例で利用料金の前納が定められているが、利用者の手続ミスで後納となった。 (利用者は毎年度、学校文化祭で施設を利用) また当該事実に関する現場からの報告も遅れた。	指定管理者は、利用者へ謝罪文を提出させ、今後、手続の誤りなきよう誓約させた。 指定管理者は、当該結果及び報告の遅滞について、県に報告し、陳謝した。 なお、その後、同様な事実は皆無である。	後納は、利用者の意識が希薄であったこと、利用者の支払手続に複数の機関の関与があったこと、及び指定管理者の指導も力不足であったことが原因。 報告の遅滞は、利用者の謝罪文提出を待って報告したためであるが、今後は事実の発生とともに速やかに連絡するよう指導した。

9 随時モニタリングの実施状況

事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載してください。

該当なし

実施日 (事故発生日)	対応者等	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
月 日 (月 日)			
月 日 (月 日)			

10 下半期の所見等

〔 2～9の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載してください。 〕

<p>指定管理者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用 <p>自主事業を多数開催したためホール利用者、ギャラリー利用者とも昨年度を大幅に超える増加となった。地元と共に運営、企画するとのコンセプトも地元好感を持って迎えられており、今後とも参加型運営を進めたい。なお、相模湖交流センタークラシック音楽友の会(仮称)が、地元の方々主導で24年度に立ち上がる予定である。</p> <p>ただし、落語と人気アーティストを除いて集客には毎回苦労している。当館のコンサート等に共感して参加している地元の方々とより連携し、工夫を凝らし、集客を増やして自主事業の理念である下流域との交流等をより一層実現したい。</p> <p>ギャラリーの自主事業もダムマニア展等好評であったことから、今後も水源地ならではの企画を数多く開催したい。</p> <p>維持管理については、徹底した節約に努めた結果、特に電気使用量において昨年度後半との比較で-41,598kwh(22パーセント)の節電を実現した。今後も徹底して進めていきたい。</p> ・職員対応 <p>職員には、好感を持たれる館運営の担い手である意識創りを徹底している。今後も一層の努力に努めたい。地元利用者からは以前とは見違えるばかりの好変化との評価を頂いている。アンケート結果においても概ね好評を頂いている。</p>
<p>施設所管課</p>	<p>来館者数は、自主事業など指定管理者の積極的な事業展開により増加に転じ、前半の利用が前年並みであれば、通年でも利用者の増加となったことは明らかである。</p> <p>交流センターの設置目的や「水のさと かながわ」を踏まえ、24年度も積極的な自主事業等の実施により、来館者数の増加となるよう期待するとともに、運営管理に関する地元利用者からの好評価が維持されるよう願うものである。</p> <p>また効率的な維持管理についても、特に県の節電に準じた取り組みの結果、22%の節電となったことは、大いに評価したい。</p>